

事務事業マネジメントシート

事務事業名		たぬまふるさと祭り支援事業				本年度担当課	産業政策課	
						前年度担当課	産業政策課	
政策 体系	基本目標	01	魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり			事業 区分	新規・継続	継続事業
	政策	02	地域資源を活かしたまちづくり				実施計画・一般	一般事業
	施策	01	中心市街地及び地域市街地の活性化				市単独・国県補助	市単独事業
	基本事業	02	地域市街地の特色ある発展				任意・義務	任意的事業
予算 科目	会計	款	項	目	予算事業名			
	一般	07	01	02	たぬまふるさと祭り支援事業			
事業計画		単年度繰り返し		事業期間	昭和51年度 ~			
根拠法令・条例等		たぬまふるさと祭り事業費補助金交付要領						

1. 事務事業の現状把握【D0】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段（事務事業の主な活動内容を記入します。）											
事業概要（具体的な事務事業の活動内容・進め方）					令和4年度実績（令和4年度に行った主な活動内容）						
たぬまふるさと祭り実行委員会（佐野市あそ商工会が事務局）が主催する「たぬまふるさと祭り」の活動を支援する事業である。平成25年度までは田沼中央公園を会場として7月末～8月上旬に開催していたが、平成26年度と平成27年度は田沼庁舎と市民病院の間に開通した市道を歩行者天国にして開催。平成28年度から会場を田沼行政センター駐車場に変更。令和4年度は佐野市国際クリケット場で、10月にクリケットW杯予選と同時開催された。					令和4年度は、10月16日（日）クリケットW杯予選と同時開催された。市の取り組みとしては、実行委員会に補助金1,220千円を支出。ポスター掲示、広報さの記事掲載、広報さの10月号と同時にチラシの全戸配布、報道機関に情報提供を行った。						
					活動指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
					広報さの記事掲載回数	回	0	1	1	1	1
					テレビ広報さの情報提供回数	回	0	0	1	1	1
②対象（この事務事業は誰・何を対象としていますか？）											
たぬまふるさと祭り					対象指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
【補助対象団体】 たぬまふるさと祭り実行委員会					たぬまふるさと祭り開催日数	日	0	1	1	1	1
③意図（この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか？）											
財政支援及び広報支援を行うことで、まつり内容の充実化と円滑運営、来場者数の増加が図られる。					成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
					たぬまふるさと祭り来場者数	人	目標	20,000	20,500	21,000	21,500
							実績	0	18,000		
④結果（どのような結果に結びつきますか？）											
地域の中心として暮らしやすく、特色を活かした地域となっている。					上位成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
					地域市街地（田沼）における定住人口	人	目標	8,702	8,705	8,708	8,711
							実績	8,774	8,774		

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
	県支出金	千円	0	0	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	0	
	その他	千円	0	0	0	0	0	
	一般財源	千円	0	1,220	0	0	0	
	事業費計(A)	千円	0	1,220	0	0	0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					負担金、補助及び	1,220		
	人件費	職員従事工数	人工	0	0.02	0	0	0
	人件費計(B)	千円	0	146	0	0	0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	0	1,366	0	0	0	

B表（事後評価シート）

事務事業名	ためまふるさと祭り支援事業	本年度担当課	産業政策課
		前年度担当課	産業政策課

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	昭和51年に田沼町商工会青年部が「I LOVE TANUMA」を合言葉に、子供たちの心に残る夏まつりを開催したいとの趣旨で開催、年々各種事業を盛り込み開催している。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	開始当初と比較して夏のイベントとして市民の間に定着している。 3年ぶりの開催となった令和4年度は、初めて佐野市国際クリケット場で、クリケットW杯予選大会と同時開催した。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	特になし

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業のやり方改善（成果向上の見直し）	現状維持により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	委ねている	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑦成果向上余地前年度評価結果	⑧左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がある程度ある	取組むことができなかった
⑨取組結果の理由			⑩事務事業の成果向上余地
市ホームページでの周知等、既存の周知・広報活動を継続しているため			成果向上余地がない
⑪A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑫目標達成に向けて必要となる取組内容	
新型コロナウイルス感染症の影響で2年間開催できなかったが、令和4年度は感染対策等を十分にとったため、多くの方の来場につながった。		ためまふるさと祭りの周知・広報活動の継続	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大			現状維持（従来通り実施） * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。	
	中		○		
	小				
	成果向上余地				
	大	中	小		

事務事業マネジメントシート

事務事業名		くずう原人まつり支援事業				本年度担当課	産業政策課	
						前年度担当課	産業政策課	
政策 体系	基本目標	01	魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり			新規・継続	継続事業	
	政策	02	地域資源を活かしたまちづくり			実施計画・一般	一般事業	
	施策	01	中心市街地及び地域市街地の活性化			市単独・国県補助	市単独事業	
	基本事業	02	地域市街地の特色ある発展			任意・義務	任意的事業	
予算 科目	会計	款	項	目	予算事業名			
	一般	07	01	02	くずう原人まつり支援事業			
事業計画		単年度繰り返し		事業期間	昭和63年度 ~			
根拠法令・条例等		くずう原人まつり事業費補助金交付要綱						

1. 事務事業の現状把握【D0】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段 (事務事業の主な活動内容を記入します。)											
事業概要 (具体的な事務事業の活動内容・進め方)				令和4年度実績 (令和4年度に行った主な活動内容)							
葛生むらおこし実行委員会 (佐野市あそ商工会、市、各団体、市内事業者で構成) が主催する「くずう原人まつり」の活動を支援する事業である。嘉多山公園を会場として、8月第4土日に開催。原人ステージでの地元小中高校生などによる吹奏楽・田植歌・歌舞伎・ダンス等の実演や古代体験イベント、朝市会売店、ふれあい動物園などを実施。				令和4年度は、9月25日(土)・26日(日)に3年ぶりに開催され、各種ステージや体験イベント等を行った。市の取り組みとしては、実行委員会に補助金2,500千円を支出。ポスター掲示、広報さの記事掲載、広報さの9月号と同時にチラシの全戸配布、報道機関に情報提供を行った。							
								活動指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)
				広報さの記事掲載回数	回	0	1	1	1	1	
テレビ広報さの情報提供回数	回	0	0	1	1	1					
②対象 (この事務事業は誰・何を対象としていますか?)											
くずう原人まつり				対象指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
【補助対象団体】 むらおこし実行委員会				くずう原人まつり開催日数	日	0	2	2	2	2	
③意図 (この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)											
財政支援及び広報支援を行うことで、まつり内容の充実化と円滑運営、来場者数の増加が図られる。				成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
				くずう原人まつり来場者数	人	目標	0	10,000	15,500	16,000	16,500
						実績	0	13,000			
						目標					
		実績									
④結果 (どのような結果に結びつきますか?)											
地域の中心として暮らしやすく、特色を活かした地域となっている。				上位成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
				地域市街地 (葛生) における定住人口	人	目標		1,963	1,951	1,940	1,928
						実績	1,921	1,921			
						目標					
		実績									

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)			
	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0			
	県支出金	千円	0	0	0	0	0			
	地方債	千円	0	0	0	0	0			
	その他	千円	0	0	0	0	0			
	一般財源	千円	0	2,500	0	0	0			
	事業費計(A)	千円	0	2,500	0	0	0			
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					負担金、補助及び	2,500				
人件費	職員従事工数	人工	0	0.02	0	0	0			
	人件費計(B)	千円	0	146	0	0	0			
	トータルコスト(A)+(B)	千円	0	2,646	0	0	0			

B表（事後評価シート）

事務事業名	くずう原人まつり支援事業	本年度担当課	産業政策課
		前年度担当課	産業政策課

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	旧葛生町において、昭和62年度に県地域小規模事業活性化推進事業を開始、商工会を事務局としたむらおこし実行委員会が組織化され、昭和663度からくずう原人まつりが開催された。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	令和元年度で32回目のまつりを開催し、開始当初と比較して夏のイベントとして市民の間に定着している。令和2・3年度は新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかったが、令和4年度は3年ぶりに実施できた。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	特になし

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業のやり方改善（成果向上の見直し）	現状維持のため対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	委ねている	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑦成果向上余地前年度評価結果	⑧左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がある程度ある	取組むことができなかった
⑨取組結果の理由			⑩事務事業の成果向上余地
市ホームページでの周知等、既存の周知・広報活動を継続しているため			成果向上余地がない
⑪A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑫目標達成に向けて必要となる取組内容	
新型コロナウイルス感染症の影響で2年間開催できなかったが、令和4年度は感染対策等を十分にとったため、多くの方の来場につながった。		くずう原人まつり開催時の広報・周知を継続する。	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大			現状維持（従来通り実施） * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。	
	中		○		
	小				
	成果向上余地				

事務事業マネジメントシート

事務事業名		初午祭交通安全対策支援事業				本年度担当課	産業政策課	
						前年度担当課	産業政策課	
政策 体系	基本目標	01 魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり				新規・継続	継続事業	
	政策	02 地域資源を活かしたまちづくり				実施計画・一般	一般事業	
	施策	01 中心市街地及び地域市街地の活性化				市単独・国県補助	市単独事業	
	基本事業	02 地域市街地の特色ある発展				任意・義務	任意的事業	
予算 科目	会計	款 項 目 予算事業名				実施方法	直営	
	一般	07	01	02	初午祭交通安全対策支援事業	事業分類	支援事業	
事業計画		単年度繰り返し		事業期間	昭和51年度 ~			
根拠法令・条例等		初午祭交通安全実行委員会交付金交付要領						

1. 事務事業の現状把握【D0】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段（事務事業の主な活動内容を記入します。）												
事業概要（具体的な事務事業の活動内容・進め方）					令和4年度実績（令和4年度に行った主な活動内容）							
旧暦2月の初午に近い金・土・日曜日に開催される初午祭りを安全に行うため、田沼初午祭交通安全実行委員会（佐野市あそ商工会、一瓶塚稲荷神社、周辺町会、商店街、佐野警察署などで構成、佐野市あそ商工会が事務局）の活動を支援する事業である。田沼初午祭交通安全実行委員会は、初午祭りの開催について、広報活動や当日の交通整理等を行っている。					令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により祭りが中止となったため、田沼初午祭交通安全実行委員会に交付金を交付しなかった。							
					活動指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
					交付金支出回数	回	0	0	1	1	1	
広報さの記事掲載回数	会	0	0	1	1	1						
②対象（この事務事業は誰・何を対象としていますか？）												
初午祭り					対象指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
【交付対象団体】 田沼初午祭交通安全実行委員会					初午祭開催日数	日	0	0	3	3	3	
③意図（この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか？）												
実行委員会に交付金を交付することで、初午祭りの事業の円滑・充実化、無事故の運営が図られる。					成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
					初午祭来場者数	人	目標	54,000	54,500	55,000	55,500	56,000
					会場内・付近での事故発生件数	件	目標	0	0	0	0	0
④結果（どのような結果に結びつきますか？）												
地域の中心として暮らしやすく、特色を活かした地域となっている。					上位成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
					地域市街地（田沼）における定住人口	人	目標		8,702	8,705	8,708	8,711
							実績	8,774	8,774			

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)		R4年度 (実績)		R5年度 (目標)		R6年度 (目標)		R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0		0		0		0		0	
	県支出金	千円	0		0		0		0		0	
	地方債	千円	0		0		0		0		0	
	その他	千円	0		0		0		0		0	
	一般財源	千円	0		0		0		0		0	
	事業費計(A)	千円	0		0		0		0		0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
	人件費	職員従事工数	人工	0		0		0		0		0
	人件費計(B)	千円	0		0		0		0		0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	0		0		0		0		0	

B表（事後評価シート）

事務事業名	初午祭交通安全対策支援事業	本年度担当課	産業政策課
		前年度担当課	産業政策課

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	旧田沼町において、初午祭を円滑かつ安全に開催するため、田沼初午祭交通安全実行委員会を組織化したことにより、平成8年から事業を実施している。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	歴史と伝統のある行事として、市民の間では定着している。政策体系上ではこの祭りを地域市街地の活性化に結び付けている。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	特になし

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持（従来通り実施）	現状維持により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	委ねている	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がある程度ある	取組むことができなかった
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
事業の中止のため			成果向上余地がない
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
新型コロナウイルス感染症の影響により、事業が中止となったため。		初午祭開催時の周知・広報を継続する。	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大			現状維持（従来通り実施）	
	中		○	* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。	
	小				
	成果向上余地				

事務事業マネジメントシート

事務事業名	葛生街路灯維持管理事業				本年度担当課	産業政策課	
					前年度担当課	産業政策課	
政策体系	基本目標	01	魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり		事業区分	新規・継続	継続事業
	政策	02	地域資源を活かしたまちづくり			実施計画・一般	一般事業
	施策	01	中心市街地及び地域市街地の活性化			市単独・国県補助	市単独事業
	基本事業	02	地域市街地の特色ある発展			任意・義務	任意的事業
予算科目	会計	款	項	目	予算事業名		
	一般	07	01	02	葛生街路灯維持管理事業		
事業計画	単年度繰り返し		事業期間	平成7年度 ~			
根拠法令・条例等							

1. 事務事業の現状把握【D0】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段 (事務事業の主な活動内容を記入します。)								
事業概要 (具体的な事務事業の活動内容・進め方)				令和4年度実績 (令和4年度に行った主な活動内容)				
・原人ロード街路灯 (28基) の電気料金は、市70%、町会30%の負担割合で、町会の負担分は町会が年2回 (上半期分と下半期分) に分けて市に納入する。 ・街路灯の撤去は葛生町街路灯維持管理委員会が平成27年度と平成28年度の2カ年かけて行い、撤去費用の50%を市補助金として平成27年度と平成28年度に支出する (撤去費用の負担割合は市50%、葛生町街路灯維持管理委員会20%、町会30%)				・原人ロード街路灯 (28基) の電気料金及び一般街路灯 (従来より市管理の3基) の電気料金、街路灯31基分の施設所有 (管理) 者賠償責任保険料を支出。				
活動指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
電気料金支払回数		回	13	13	13	13	13	
②対象 (この事務事業は誰・何を対象としていますか?)								
①市民・来訪者 ②葛生地区内街路灯		対象指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
		人口	人	116,982	115,700	115,700	115,700	115,700
		街路灯設置数	基	31	31	31	31	31
③意図 (この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)								
①安全・快適に生活、事業活動を行うことができる。 ②適正な維持管理がされている。		成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
		施設維持管理上の苦情件数	件	目標 実績	0 0	0 0	0 0	0 0
④結果 (どのような結果に結びつきますか?)								
地域の中心として暮らしやすく、特色を活かした地域となっている。		上位成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
		地域市街地 (葛生) における定住人口	人	目標 実績	1,963 1,868	1,951	1,940	1,928

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
	県支出金	千円	0	0	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	0	
	その他	千円	0	0	0	0	0	
	一般財源	千円	0	697	0	0	0	
	事業費計(A)	千円	0	697	0	0	0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					需用費	692		
					役務費	6		
人件費	職員従事工数	人工	0	0.02	0	0	0	
	人件費計(B)	千円	0	146	0	0	0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	0	843	0	0	0	

B表（事後評価シート）

事務事業名	葛生街路灯維持管理事業	本年度担当課	産業政策課
		前年度担当課	産業政策課

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	旧葛生町において、平成6年に老朽化した街路灯を全て設置し、その管理運営を行うため、平成7年2月に葛生町街路灯維持管理委員会を設置し、同委員会に対して、旧葛生町で電気料の補助を実施した。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	葛生庁舎が平成24年1月に移転し、葛生地区のまちなか活性化の取り組みは重要性が増すと考えられる。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	平成23年2月、補助金等交付検討委員会から、「（他地区では街路灯の補助は実施していないため）他地区との整合性を考えたうえで、防犯灯に対する補助との関連を整理すべきである。」との提言を受けた。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持（従来通り実施）	現状維持により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければできない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑦成果向上余地前年度評価結果	⑧左記に対する取組結果
類似事務事業があり統合・連携できている	防犯灯設置支援事業	成果向上余地がない	取組むことができなかった
⑨取組結果の理由			⑩事務事業の成果向上余地
前年度評価結果が「成果向上余地がない」のため取組実績なし			成果向上余地がない
⑪A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑫目標達成に向けて必要となる取組内容	
施設維持管理上の苦情はなかった。		施設の適正な管理を行う。	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大			現状維持（従来通り実施） * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。	
	中		○		
	小				
	成果向上余地				

事務事業マネジメントシート

事務事業名		壱番館公衆トイレ維持管理事業				本年度担当課	産業政策課	
						前年度担当課	産業政策課	
政策体系	基本目標	01 魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり				新規・継続	継続事業	
	政策	02 地域資源を活かしたまちづくり				実施計画・一般	一般事業	
	施策	01 中心市街地及び地域市街地の活性化				市単独・国県補助	市単独事業	
	基本事業	02 地域市街地の特色ある発展				任意・義務	任意的事業	
予算科目	会計	款 項 目 予算事業名				実施方法	直営	
	一般	07	01	02	壱番館公衆トイレ維持管理事業	事業分類	施設維持管理事業	
事業計画		単年度繰り返し		事業期間	平成14年度 ~			
根拠法令・条例等								

1. 事務事業の現状把握【D0】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段 (事務事業の主な活動内容を記入します。)															
事業概要 (具体的な事務事業の活動内容・進め方) ・中心市街地の活性化の拠点施設として設置された葛の里壱番館の公衆トイレ (葛の里壱番館東側) の維持管理を行う事業である。 ・維持管理は、まちづくり葛生㈱に委託して維持管理を行う。 ・トイレ周辺の立木の害虫駆除、剪定なども行う。					令和4年度実績 (令和4年度に行った主な活動内容)										
					・公衆トイレの維持管理をまちづくり葛生㈱に委託した。 ・公衆トイレの手洗い器の修繕を行った。(7,2月) ・ポケットパーク南側の生垣の剪定を実施した。(10月)										
					活動指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)				
トイレ清掃作業のべ日数					日	365	365	366	365	365					
周辺立木の害虫駆除等回数					回	1	1	1	1	1					
②対象 (この事務事業は誰・何を対象としていますか?)															
①来訪者 (市民・観光客等) ②葛の里壱番館公衆トイレ					対象指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)				
					来訪者数 (壱番館)					人	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000
③意図 (この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)															
①快適に公衆トイレを利用することができる。 ②いつでも快適に利用できるように維持管理がなされている。					成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度				
					施設維持管理上の来訪者からの苦情件数					件	目標	0	0	0	0
										実績	0	0			
										目標					
					実績										
④結果 (どのような結果に結びつきますか?)															
地域の中心として暮らしやすく、特色を活かした地域となっている。					上位成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度				
					地域市街地 (葛生) における定住人口					人	目標	1,963	1,951	1,940	1,928
										実績	1,921	1,868			
										目標					
					実績										

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)		R4年度 (実績)		R5年度 (目標)		R6年度 (目標)		R7年度 (目標)		
	国庫支出金	千円	0		0		0		0		0		
	県支出金	千円	0		0		0		0		0		
	地方債	千円	0		0		0		0		0		
	その他	千円	0		0		0		0		0		
	一般財源	千円	0		1,014		0		0		0		
	事業費計(A)	千円	0		1,014		0		0		0		
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	
					委託料	706							
					需用費	303							
				役務費	4								
人件費	職員従事工数	人工	0		0.02		0		0		0		
	人件費計(B)	千円	0		146		0		0		0		
	トータルコスト(A)+(B)	千円	0		1,160		0		0		0		

B表（事後評価シート）

事務事業名	壱番館公衆トイレ維持管理事業	本年度担当課	産業政策課
		前年度担当課	産業政策課

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	旧葛生町において、平成14年4月27日に葛の里壱番館の開館に合わせ、中心市街地への来訪者の利便性を図るため、公衆トイレを設置した。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	葛生庁舎が平成24年1月に移転したため、葛生地区のまちなか活性化の拠点施設としての葛の里壱番館の重要性は増している。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	公衆トイレを維持管理しているまちづくり葛生㈱から、当該施設に対するいたづら等の報告があった。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持（従来通り実施）	現状維持により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	委ねている	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がない	取組むことができなかった
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
前年度評価結果が「成果向上余地がない」のため取組実績なし			成果向上余地がない
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
施設維持管理上の苦情はなかった。		施設の適正な管理を行う。	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大			現状維持（従来通り実施） * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。	
	中		○		
	小				
		大	中	小	
		成果向上余地			

事務事業マネジメントシート

事務事業名	地域市街地活性化推進事業					本年度担当課	産業政策課					
						前年度担当課	産業政策課					
政策体系	基本目標	01	魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり			事業区分	新規・継続	新規事業				
	政策	02	地域資源を活かしたまちづくり				実施計画・一般	実計計画事業				
	施策	01	中心市街地及び地域市街地の活性化				市単独・国県補助	市単独事業				
	基本事業	02	地域市街地の特色ある発展				任意・義務	任意的事業				
予算科目	会計	款	項	目	予算事業名							
	一般	07	01	02	地域市街地活性化推進事業							
事業計画	単年度繰り返し			事業期間	令和4年度 ~							
根拠法令・条例等												

1. 事務事業の現状把握【D0】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段 (事務事業の主な活動内容を記入します。)														
事業概要 (具体的な事務事業の活動内容・進め方)						令和4年度実績 (令和4年度に行った主な活動内容)								
地域市街地 (田沼駅及び葛生駅周辺地区) の活性化策を講じるために必要な調査、研究及び資料の作成を行う。 ①市、商工団体及び民間会社等それぞれの意見を集約し、具体的な方策を探る。 ②宇都宮大学の「地域プロジェクト演習」を通じて、地域が抱える課題の解決策を学生との協働により検討する。田沼及び葛生地域市街地の賑わい創出に向けた施策立案に繋げるため、必要な調査を実施の上、今後の方針をまとめる。						①宇都宮大学「地域プロジェクト演習」による学生との協働 ※現地調査3回、合同発表会3回、あそ商工会青年部との意見交換、地域住民を対象としたワークショップ、地元での活動成果発表会 (市長プレゼン) ②まちなか地域おこし協力隊員によるアンケート調査実施 (時期: 令和4年4月~5月 対象: あそ商工会青年部員59名 回答数: 24件) ③空き店舗実態調査及び歩行者通行量調査実施								
						活動指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
歩行者通行量・空き店舗調査		回	2	2	2	2	2							
②対象 (この事務事業は誰・何を対象としていますか?)														
地域市街地 (田沼駅及び葛生駅周辺地区) 区域面積						対象指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
地域市街地区域面積						ha		192	192	192	192	192		
③意図 (この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)														
地域市街地 (田沼駅及び葛生駅周辺地区) の現状を把握するとともに、活性化に向けた検討を行い、地域市街地の活性化を推進する。						成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
						地域市街地歩行者通行量 (平日・2か所)		人	目標	750	800	850	900	950
						地域市街地メイン通り沿いの店舗数			実績	708	890			
								軒	目標	128	130	132	134	136
		実績	134	127										
④結果 (どのような結果に結びつきますか?)														
人の交流がさかんな商業地域となっている。						上位成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
地域市街地空き店舗活用件数 (累計)						件	目標	2	4	6	8	10		
							実績	2	2					
地域市街地 (田沼・葛生) における定住人口						人	目標	10,673	10,665	10,656	10,648	10,659		
							実績	10,695	10,642					

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
	県支出金	千円	0	0	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	0	
	その他	千円	0	0	0	0	0	
	一般財源	千円	0	139	0	0	0	
	事業費計(A)	千円	0	139	0	0	0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					委託料	139		
	人件費	職員従事工数	人工	0	0.36	0	0	0
	人件費計(B)	千円	0	2,623	0	0	0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	0	2,762	0	0	0	

B表（事後評価シート）

事務事業名	地域市街地活性化推進事業	本年度担当課	産業政策課
		前年度担当課	産業政策課

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	現行の中心市街地活性化法では、原則として1市区町村の中心市街地は1区域に限定されているため、地域市街地には適用が困難である。その後、立地適正化計画が公表され、地域拠点においても土地の資源・ストックを活用しながら、都市機能の誘導を図ることとなった。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	地域別の将来人口（令和27年度）予測では、葛生地域市街地で人口減少が顕著に進むほか、市内の空き家の動向をみると、平成15年度以降空き家及び空き家率共に増加傾向にあり、人口減少に伴い、今後も増加が予想される。また、賑わいが求められる田沼駅・葛生駅周辺では、空き地等の低・未利用な土地の割合が高くなっている。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	令和3年2月市議会定例会一般質問において、地元選出議員から、田沼地域市街地におけるまちづくり会社とインキュベーション施設との関連について質疑が行われた。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組

2. 事務事業の事後評価【Check】

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければできない	妥当である	人件費の削減余地がある
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はあるが、統合・連携できない	中心市街地活性化基本計画推進事業		向上しなかった
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
			成果向上余地がある程度ある
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
田沼地域市街地において空き店舗は存在するものの、老朽化が顕著な物件、不動産業者が介在しない物件、店舗併用住宅の家主が賃貸に応じない物件が多く、利活用が困難であることが調査の結果判明した。		地域住民のまちづくりに対する意識改革を促すため、今後もワークショップの開催やパンフレットの配布を通じて、地域市街地活性化の機運を醸成する。	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大			受益者負担の適正化 * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。	
	中	○			
	小				
	成果向上余地				